

事業報告

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

公益財団法人 奈良先端科学技術大学院大学支援財団は、国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学が持つ斬新かつ優れた特性および機能が最大限に発揮されるよう、事業計画にもとづき、各種支援事業・地域交流事業に取り組みました。

なお、新型コロナウイルスの影響等により、一部の事業では事業の縮小や感染対策に留意しながらの実施となりました。

各事業の実績については、以下のとおりです。

1. 大学院大学に対する支援事業

令和4年2月25日に開催した支援事業選考委員会において、令和4年度の大学院大学に対する支援事業の内容を以下のとおり決定し、37,000千円の助成金を交付しました。

(1) 教育研究活動に対する支援

① 研究テーマ助成

12名、23,200千円(助教7名、15,700千円/博士後期課程学生5名、7,500千円)

(実績12名、23,199,670円(助教7名、15,700千円/博士後期課程学生5名、7,499,670円))

氏名	所属・職名	研究テーマ
佐藤 勇起	情報科学領域 ヒューマンロボティクス研究室・助教	ヘッドマウントデバイスを用いた後部座席乗員の動揺病軽減手法
大内 啓樹	情報科学領域 自然言語処理学研究室・助教	テキスト平易化のための分析的評価データセット
澤邊 太志	情報科学領域 インタラクティブメディア設計学研究室・助教	XRモビリティプラットフォームを用いた情報提示手法による搭乗者の自動走行ストレス軽減
宮崎 亮次	バイオサイエンス領域 構造生命科学研究室・助教	生体膜を透過途上の新生ポリペプチド鎖のin vivo 相互作用動態解析
安喜 史織	バイオサイエンス領域 植物成長制御研究室・助教	クロマチンの視点から捉えるDNA倍加誘導の分子メカニズム
PANDEY Manish	物質創成科学領域 有機エレクトロニクス研究室・助教	Superflexible Organic CMOS inverters and Circuits
Louis Marine	物質創成科学領域 光反応分子科学研究室・助教	Development of TADF and CPL emitters for application in OLEDs
Wassapon Watanakeesunorn	先端科学技術研究科 ソフトウェア設計学研究室・博士後期課程3年	Lightweight DDoS Detection in SDN using Empirical Dynamic Modeling

小林 利紗	先端科学技術研究科 花発 生分子遺伝学研究室・博士後 期課程 2年	アブラナ科植物における新たな優劣性制御モ デルの提唱
Hu Hooi Ting	先端科学技術研究科 分子 医学細胞生物学研究室・博士 後期課程 2年	The characterization and functional analysis of IRSp53-mediated secretion of extracellular vesicles from tumor cells
岡田 竜馬	先端科学技術研究科 光機 能素子科学研究室・博士後期 課程 1年	偏光変調検出イメージセンサによる高感度リ アルタイム高周波撮像装置の開発
Candell Grace Paredes Quino	先端科学技術研究科 情報 機能素子科学研究室・博士後 期課程 2年	Artificial Synaptic Device for Neuromorphic Computing using Thin-Film Transistors from Solution Combustion Synthesis

②新任教授スタートアップ助成

新任教授が研究体制を整備して研究活動をスムーズに始められるよう支援しました。

2名、3,000千円（実績 2名、3,000,000円）

氏名	所属・職名	研究テーマ
松原 崇充	情報科学領域・教授	ロバスト模倣学習とロボット応用
吉田 昭介	バイオサイエンス領域・教授	PETを原料とする新規発酵システムの開発

③社会人ドクター修学支援

企業に所属している社会人の修学を促進するため、社会人学生のうち、入学料と授業料を自己負担して博士後期課程に入学する学生に対する支援を行いました。当初は支援対象者10名、2,000千円で計画していましたが、希望者が少なかったことから、3名に支援しました。

10名 2,000千円（実績 3名、600,000円）

(2)国際交流活動に対する支援

①海外派遣支援

海外の国際会議において、研究成果を発表する博士後期課程学生を支援しました。

当初は支援対象者28名、2,323千円(情報科学領域 15名、バイオサイエンス領域 5名、物質創成科学領域 8名)で計画していましたが、研究成果の発表先の変更等のため、21名に支援しました。

28名、2,323千円（実績 21名、1,590,826円）

②外国人留学生支援

教育研究の国際化を推進するため、博士後期課程に入学する外国人留学生の中から大学院大学が選考した留学生に対し、渡日旅費と入学料を支援しました。当初は支援対象者6名、2,652千円で計

画していましたが、内部進学者もあり、5名に支援しました。

6名、2,652千円(旅費支援960千円/入学金支援1,692千円)

(実績 5名、1,842,860円(旅費支援 432,860円/入学金支援 1,410,000円))

③大学間交流活動支援

学術交流協定に基づき、タイ・カセサート大学におけるソフトウェア分析に関する研究開発、並びに香港中文大学への海外インターンシップを行うための渡航費用を支援しました。

3名、185千円(実績 3名、185,000円)

(3)学術研究成果の普及に対する支援

意見交換会や講演会、研究業績報告会、シンポジウムなど、大学院大学の研究成果を広く社会に還元するための取り組みを支援しました。

6件 2,500千円(実績 6件、2,186,470円)

(4)アワード事業

①NAIST最優秀学生賞

学習や研究に対する意欲を高めるため、令和5年3月24日に開催された学位記授与式において、優秀な成績を修めた博士前期課程と博士後期課程の修了生を理事長名で表彰し賞金を授与しました。

(実績) 14名、840千円

情報科学研究科(領域)	博士前期課程	西山 智弘、前田 拓哉 KIM GAHEE
	博士後期課程	田井中 溪志、ARAYA KIBRON DESTA ZHU LINGWEI
バイオサイエンス研究科(領域)	博士前期課程	韓 嬌雪、海老原 諒子
	博士後期課程	CHU MINH CUONG JONATHAN JUN-YONG LIM
物質創成科学研究科(領域)	博士前期課程	岡崎 魁、笠原 彰真
	博士後期課程	黒崎 滯 SAFARUDDIN AIMI SYAIRAH

②教員表彰

教育研究活動で優れた業績を挙げた教員に対する表彰に際し、賞金を贈呈しました。

(実績) 2名、300千円

情報科学領域 「ベストティーチング賞」

情報科学領域 教授 松原 崇充

バイオサイエンス領域 「バイオ領域賞」

対象者なし

物質創成科学領域 「NAIST 学術奨励賞」

物質創成科学領域 准教授 安原 主馬

2. 先端科学技術の普及啓発事業

大学院大学が理念の一つとして「社会の発展や文化の創造に向けた学外との密接な連携・協力の推進」を掲げ、積極的に取り組んでいる、いわゆる産学官連携推進の活動のうち、当財団は2つの取り組みに関わり、大学院大学支援事業とは別枠で支援を行いました。

(1) 産学官交流事業

① 奈良先端大発 新産業創出支援事業

大学院大学では「企業や他の大学との共同研究」や「企業からの受託研究」、「企業からの研究者の受け入れ」を行っていますが、これとは別に、大学院大学で生まれた研究成果や技術シーズの実用化・製品化を目指して、関西地区の中小企業やベンチャー企業と連携して研究開発に取り組む場合に、研究開発費用の一部を支援しました。

2件、2,000千円

大学研究者	連携企業	研究開発テーマ	
バイオサイエンス領域 教授 高木 博史	ゴールデンラビットビール	奈良オリジナル酵母を用いたクラフトビールの高付加価値化とブランド化	新規
情報科学領域 准教授 石尾 隆	(株)dTosh	プログラミング初心者が抱える質問に応じた解答事例の自動推薦システムの研究開発	継続

② 奈良先端大産学連携フォーラム

産学官連携活動を推進し社会の発展に寄与するため、大学院大学の先端的で独創的な研究成果を紹介するとともに、大学院大学の研究者と産業界の研究者・技術者との交流を図ることを目的として、大学院大学、公益社団法人関西経済連合会および当財団の共催で第35回目となるフォーラムをオンラインも併用しながら開催しました。

フォーラムでは、大学院大学の太田淳理事・副学長による概要紹介の後、令和元年度より始めましたテーマ「未来社会への提案」の第二弾として、データ駆動型サイエンスによるアプローチを紹介しました。

テーマ 「未来社会への提案 vol.2～データ駆動型サイエンスによるアプローチ～」

開催日 令和4年7月29日（金）

場 所 グランキューブ大阪（大阪府立国際会議場）10階会議室1003（大阪市北区）

講 演 「データ駆動型サイエンスが導く研究・開発のパラダイム変革」

データ駆動型サイエンス創造センター センター長 船津 公人

参加者 92名

3. 地域交流事業

(1) 地域交流

先端科学技術に対する地域住民の関心を高めるとともに、地域住民との相互理解を深めるため、関西文化学術研究都市の高山地区に立地する6施設（大学院大学、参天製薬(株)奈良研究開発センター、上六印刷(株)、(株)Burley plus、(株)芦田製作所、当財団）で組織する「関西文化学術研究都市高山地区立地施設等連絡協議会」（以下「学研・高山連絡協」という。事務局は当財団）が交流事業を実施したほか、当財団単独でも交流事業を実施しています。

①高山サイエンスタウンフェスティバル

学研・高山連絡協の主催により11月19日（土）に開催しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、内容、規模を縮小し開催しましたが、音楽、ものづくり、科学体験など来場者に楽しんでいただける1日となりました。

②NAISTサイエンス塾

大学院大学の教員や学生の指導の下、新型コロナ感染拡大防止対策に留意しつつ、小学生を対象とした科学実験教室を開催しました（年7回）。

開催月

4月 「私たちの体の設計図、DNAを抽出してみよう！」

5月 「パンを作る生き物「イースト」のひみつに迫ろう」

6月 「センサーでヒトの動きを取り出してみよう！」

9月 「いろんなスライムを作ろう & ペットボトル顕微鏡で小さな世界を見てみよう！」

10月 「対戦ゲームでAIプログラミングに挑戦しよう！」

12月 「集まれ科学者のたまご達！ ～電気と磁気を操ろう～」

1月 「光と海の波の共通点 温めたチーズから見えるもの！」

場 所 高山サイエンスプラザ 大研修室

参加者 小学生205人

③夏休み科学実験教室

夏休み期間中に、奈良女子大学理学部教授の小林毅氏を講師として、小学生を対象とした科学実験教室を開催しました。

開催日 令和4年8月6日(土)

場 所 高山サイエンスプラザ 大研修室

内 容 「カメラや距離計をつくって光の不思議を感じてみよう！」

参加者 小学生29人

④科学に関する絵画展

近隣の市町の小学生から科学をテーマとする絵画を公募し、集まった315点の中から優れた作品を表彰し、理事長賞、優秀賞および入選の46作品を、高山サイエンスプラザに展示しました。

理事長賞8点、優秀賞13点、入選25点

⑤高山サイエンスプラザ定期音楽会

学研・高山連絡協の協賛を得て実施する若手音楽家による演奏会（プチコンサート IN 高山 年4回開催）を発展拡大し、定期音楽会として開催しました。

開催月 4月、5月、6月、7月、8月、9月、10月

場 所 高山サイエンスプラザ オープンギャラリー

参加者 332人

⑥サイエンスランド

遊びを通じ、幼児等が科学に芽生える場として、園児の科学体験の集団利用に活用されています。ソーラーカーなどは奈良先端大の各研究室より提供いただいたもので、これらの研究室をPRするパネルも併せて掲出しています。

設置コンテンツ：ソーラー玩具（ドラえもん、バッタ、カエル、カモメ、月面探査機）

電磁石ゴマ、紙コップ UFO など

(2) 情報発信

当財団のホームページ（URL：<http://www.science-plaza.or.jp>）において、催事などのお知らせのほか、財団の業務・財務に関する情報を適時公開しました。

4. 高山サイエンスプラザおよび駐車場の運営

高山サイエンスプラザおよび高山サイエンスタウン駐車場の運営状況は以下のとおりです。

(1) 高山サイエンスプラザ見学の状況

当期中の団体見学は、近隣の幼稚園6団体、小学校1団体、中学校1団体、地域団体3団体、見学者数は延べ406人で、新型コロナウイルス感染防止対策で激減した前年度128人より増加しました。

(2) レンタルオフィスおよび研究者用住戸の状況

レンタルオフィスには1年間を通してテナント2社が入居し、また、研究者用住戸は海外からの研究者など延べ110人月の利用がありました。なお、研究者用住戸は、海外からの研究者の来日が少しずつ緩和されてきたこともあり、前年度に比べて若干の増加となりましたが、例年に比べて7割程度となっています（前年度93人月、前々年度92人月）。

(3) 会議室・研修室等の利用状況

大研修室は、「NAISTサイエンス塾」等に、オープンギャラリーは「プチコンサート・定期音楽会」等に、交流ギャラリーは、「サイエンスランド」に、当財団の地域交流事業の会場として使用しました。さらに、屋上の一部を通信事業者2社に携帯電話無線局設置のため賃貸し、年間を通して使用させました。

(4) 高山サイエンスタウン駐車場の利用状況

駐車場については、1年間を通して定期券は1ヶ月券・3ヶ月券・6ヶ月券合計で約1,500枚、また1回駐車券は約8,700枚の売上となりました。

(5) 施設・設備の維持管理の状況

設備等の老朽化に伴う修繕として、受水槽の更新（工事費13,400千円）、外壁補修（工事費3,289千円）駐車場区画線補修（工事費1,286千円）等を行いました。

5. その他

(1) 理事会の開催

①第52回理事会（通常）

開催日 R4年5月31日（水） 現地開催（高山サイエンスプラザ）及びWeb参加
＜議案＞(1)R3年度事業報告及び収支決算
(2)基本財産と特定資産の一部入替え
(3)第34回評議員会の招集

②第53回理事会（通常）

開催日 R5年3月13日（木） 現地開催（高山サイエンスプラザ）及びWeb参加
＜議案＞(1)R5年度事業計画及び収支予算
(2)特定資産の一部取崩し
(3)R4年度設備投資の見込みの変更

(2) 評議員会の開催

①第34回評議員会（定時）

開催日 R4年6月21日（木） 現地開催（高山サイエンスプラザ）及びWeb参加
＜議案＞(1)R3年度事業報告及び収支決算
(2)特定資産の一部取崩し
(3)評議員の選任、理事の選任

以 上

附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項については、該当なし。